

すぎのこ



「笑う門には福来る」

てくるものである
というものです。

笑いは、①脳の

早いもので来週から師走です。次号が一月になりますので、もちつきやお楽しみごも会、終業式などの行事は終わっておらず少し早いです。ご挨拶をさせていただきます。

本年の保護者の皆様のご支援、協力に心から感謝申し上げます。どうかみなさま、良い年をお迎えください。

さて、この時期から正月にかけてお笑い番組が増えます。この一年を振り返り、誰もが新年を今年以上に楽しく明るいものにしたという思いの表れなのでしょう。「笑う門には福来る」ということわざもこの時期によく聞くことわざです。このことわざの意味は、「いつも笑い声が満ち、和気あいあいとした家には自然と幸福が巡っ

尚綱大学附属こども園

「女性客Bに向かって）あのおとなりのお客様がそれを食べたいそうです。」

女性客A「ちがうちがうー」↓「ファイト一発！」

女性客Aは、おとなりと同じものを食べたいといったつもりなのに、おとなりの食べかけの料理を食べたいのだとウェイターは思ったということでした。

また次の話でも面白かったです。スーパリーのレジでの出来事です。レジ係のベテラン女性店員

「あー、レジが混んできたなあ（小声でつぶやく）。」

「レジの応援お願いします。」

（店内放送で）レジの追加応援の放送を流す）

（すると少し遠くで仕事をしている新人男性店員が、大きな声で）

「せんぱーい。レジ頑張ってください。」

ベテラン女性店員「新人くーん。レジの応援ってそういう意味じゃないよー。」

この面白いCMは毎日流れてくるわけではありませぬ。それが流れ

た日は、うれしくなって、運転が楽しくなります。漫才にしてもこれらのCMにしても相手に笑いを提供するということはものすごいことだと思います。何がすごいかというと聞き手がどう感じてくれるか、どうすれば笑わせることができるのかを想像しながら作っているという点です。このCMの作者に敬服します。

この「想像力」は生きていくうえでとても大切な力です。「人権教育の第三次取りまとめ」という文科省から出されている文書にも、「他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが分かるような想像力、共感的に理解する力を培うことが大切」と記されています。

園では毎日、一つの物を取り合ったり、順番通りでなく割り込んだりするなど、小さないざこざが起きます。そのとき保育者は、

（けがをさせそうなときは間に入るなどして止めますが）「多分こんな気持ちだったんだよ」と代弁した

最後にもう一つ同じメーカーのCMから。運転者「このナビ、哲学モードがついているぞ。どんなモードだろう？」押ししてみよう。ナビ「道というのは道であって道ではない。」



「手形をつけるよお〜」

ね。」と代弁した

り、「どんな気持ちだったのさう？」と声をかけながら相手の気持ちに気づかせたりするようにしています。それが将来の想像力の高まりにつながっていくと思います。遊びを通して、また問題を通して、園児の生きる力を育てています。（次号から本園において遊びを通してつけている力について掲載する予定です）

先ほどの「笑う門には福来る」に戻りますが、門を家や家族と考えていますがこれは園にも当てはまります。

本園の職員は、園児と向き合うときに笑顔で接することを心がけています。それが園児の幸せに少しでも役に立てばと思っています。このような気持ちで新年も園児を育てていきたいと考えています。来年もよろしく願っています。

最後にもう一つ同じメーカーのCMから。運転者「このナビ、哲学モードがついているぞ。どんなモードだろう？」押ししてみよう。ナビ「道というのは道であって道ではない。」

運転者「いいから早く道を教えて。あー疲れた。」（そして決め台詞）

最後にもう一つ同じメーカーのCMから。運転者「このナビ、哲学モードがついているぞ。どんなモードだろう？」押ししてみよう。ナビ「道というのは道であって道ではない。」